

一時帰国者	性別	出生年月日	プロフィール
 <p><b>仲地 リカルド</b> (リカルド アブリュ ナカチ)</p>	男	1934年9月25日	<p>父は沖縄県出身で、1922年頃に漁船に乗ってフィリピン・パラワン島へ渡り、「モロアミ」という日本の漁法で漁業を営んでいた。当時コロソラには漁業に従事する沖縄出身の日本人移民が多く暮らし、フィリピン人とともに漁業を行っていた。父はパラワン州プサンガ町出身の母と出会い、1925年12月16日にコロソラの治安判事宅で結婚。父母の婚姻については、フィリピン国立公文書館に記録が残っており、父の名前が「ヘイジロウ ナカチ」、出生地が「オキナワ、日本」、国籍が「日本」、父の父(祖父)の名前が「ヘイタロウ ナカチ」、父の母(祖母)の名前が「ニー ナカチ」と記載されている。結婚後、父母は7人の子どもをもうけたが、うち4人は幼少時に死亡し、現在生存しているのは本人のみである。母は1939年に病気のため死亡した。</p> <p>戦争が始まると、父は日本軍に協力するために、家族をプサンガ町に残し、単身クヨ島へ向かった。1943年頃に、クヨ島でフィリピンゲリラに捕らえられた父は、いったん解放されるとプサンガ町の家族の元へ戻って来たが、その数か月後、再びフィリピンゲリラに捕まり、行方不明となった。父を捕らえたゲリラの船の船長の話によると、父は再びクヨ島へ連れていかれ、クヨ島で拷問にあったのち銃殺されたという。残されたリカルドときょうだいは、日本人とわかると危険が及ぶため、母の妹とともにクリヨン島へ行き、避難生活を送った。</p> <p>終戦後、リカルドときょうだいはプサンガ町へ戻り、母の妹に育てられた。リカルドは学校に通いながら漁師として働き、27歳で高校を卒業した。その後28歳で結婚した本人の婚姻契約書には、父の姓が「ナカチ」、国籍が「日本」と記載されている。リカルドは妻との間に10人の子ども(5男5女)をもうけた。</p> <p>2007年頃に本人の長女が沖縄を訪問し、日本人と知り合いになったのをきっかけに、父の身元を捜そうとし、新聞社のインタビューを受け、紙面で父についての情報提供を呼び掛けたが、身元は判明しなかった。2014年に、日本のNPOが父の身元捜しや日本国籍取得の支援をしていると知り、2016年にNPOの面接を受けた。NPOの調査の結果、父母の婚姻記録がフィリピン国立公文書館に保管されていることがわかった。</p> <p>リカルドは2017(平成29)年2月に那覇家庭裁判所へ就籍許可を申立て、同年3月に許可となった。</p>
		現住所	
	パラワン州コロソラ町		
	父の情報	出生地	
	ナカチ ヘイジロウ 沖縄県出身	パラワン州コロソラ町	
証拠書類	パラワン州コロソラ町		
父母の婚姻記録(フィリピン国立公文書館 保管)			
 <p><b>岸本 ヤス子</b> (ヘネロサ キシモト トレス)</p>	女	1937年7月17日	<p>父沖縄県・名護出身で、1917(大正6)年にフィリピン・ミンダナオ島へ渡り、ザンボアンガ市のアイスクリーム・コーンをつくる工場に働いていた。その時出会ったフィリピン人女性との間に1女をもうけたが、出産時に女性が死亡。父は子どもを育てながらアイスクリームを売る店を経営し、その店で売り子として働いていた母と出会う。父母は8人の子ども(6男2女)をもうけた。きょうだいのうち健在なのは、第4子の清(エドアルド)と第6子のヤスコ(ヘネロサ)のみだが、清はアルツハイマーを患って寝たきりの状態である。ヤスコについては、出生の5か月後にキリスト教の洗礼を受けた記録が見つかり、父の名前が「I. KISHIMOTO」と記載されている。</p> <p>戦前、兄弟のうち進(ディオメデス)とヤスコ(ヘネロサ)は、現地の日本人学校に1年だけ通った。父は自宅に日本人の友人を招くことがあり、ヤスコは日本の踊りを踊ってもてなしたことを覚えている。</p> <p>戦争中、父は日本軍と行動をともにした。家族は他の日本人家族とともにサンボアンガ市内の防空壕に避難をした。その後家族の元を訪れた父は、家族に別れを告げ、バンラン州ラミタン町の母の親戚の世話になるように言った。その後父は消息不明となった。</p> <p>戦後は母がおかしを作り、子どもたちがそれを売り歩くことで生計を立てた。ヤスコはバンラン州やサンボアンガ市で学校に通い、小学校を卒業した。その後ヤスコは、バンラン州イサベラ町の祖母の家に住み、野菜売りをした。そこで知り合ったフィリピン人男性と1958年に結婚をした。ヤスコの婚姻契約書の父親欄には「I. KISHIMOTO」と記載されている。ヤスコは夫との間に3人の子どもをもうけた。</p> <p>ヤスコは自分と同様に日本人父をもつフィリピン残留日本人2世から、日系人会が日本人父の身元捜しや日本国籍取得の支援をしていると聞き、日系人会を訪れ、2016年に日本のNPOの面接を受けた。NPOの調査の結果、父のフィリピンへの渡航記録や戦後に米軍の捕虜となった記録、日本へ強制送還となった時の引揚者名簿が見つかり、父の姓名が「岸本 伊祐」であることがわかったが、父の身元は未だ判明していない。</p> <p>ヤスコは2017(平成29)年5月に那覇家庭裁判所へ就籍許可を申立て、同年6月に許可となった。</p>
		現住所	
	バンラン州イサベラ市		
	父の情報	出生地	
	岸本 伊祐 沖縄県国頭郡名護町出身 (※現在の名護市)	サンボアンガ市	
証拠書類	サンボアンガ市		
フィリピンへの渡航記録 洗礼証明書 捕虜の記録(米軍 保管) 引揚者名簿(厚生労働省 保管)			